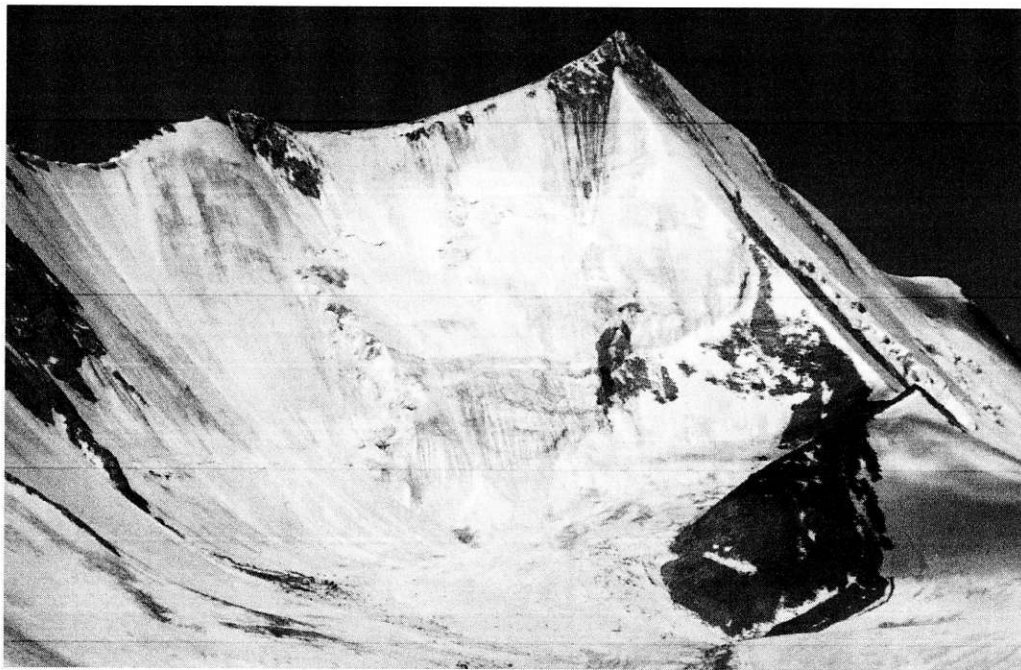


発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 伊藤 智彦
 編集人 中平等 新一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◆11月25日(金) 「遭難を考える」講演会

<http://aichi-sangaku.main.jp/>



シヤドール・リ (5942m)

PHOTO 日本山岳会東海支部登山隊

コロナ禍で失ったものの回復!

会長 伊藤 智彦

長く続く新型コロナウイルス感染症ですが、日本もウイズコロナに舵を切ったようですね。今年の夏は新型コロナウイルス感染症対策において特別な行動制限なしということがありました。しかし、現実はい

例年にならない猛暑、長雨、台風の影響やコロナ感染第七波の到来が重なって、みなさんもなかなか思いどおりに活動できなかつたと思います。はやく昔のように楽しく山の活動ができる事を切望します。

コロナ感染が始まってかなりの時間が経ちましたが、この間、失いつつあるものがあるのではないかと心配しています。行事の継続性、活動に対しての計画的な取り組み、特に山などの伝達や山活動での実践感覚等々。私自身、体力不足を実感しています。これらを回復することが今後の課題になってきていると考え

ます。会員各人の所属する団体においても意識しておられると思いますが、愛知県山岳連盟はこの点も含めて、今後の活動を考えていきたいと思っています。この夏の日本山岳会東海支部による、第十四次インドヒマラヤ登山隊の登頂成功は誠に喜ばしいことでし

た。コロナ禍においての久々の海外遠征でありました。その意欲的な活動に心から賛辞を贈ります。

過去に全国規模のイベントとして一九九四年に「愛知わかしゃち国体」が開催され、山岳競技(縦走・踏査・山岳クライミング)が奥三河で実施されました。実施数年前から計画的に準備が行われ、多くの愛知岳連の会員や全国の山岳関係者の応援があつて無事終了し、大きな成果を上げました。年配の会員の方は懐かしい思い出として残っていると思われれます。その時の会員の交流が、日頃の活動の活性化や東海四県の相互の活動の深化に長年大きく影響を与えてきました。

今後のことですが、現在、岳連の直面する課題として「法人化」と「名古屋アジア大会」があります。実施競技の内、山岳競技はスポーツクライミングがポートメッセ名古屋の特設会場で実施予定です。今後詳しいことが徐々にわかってくると思います。多くの方に運営スタッフ等としてご協力願うこととなります。よろしくお願ひします。

新規入会者の動機など調査するアンケート実施

愛知県山岳連盟は、6月29日から7月19日の21日間に法人化に向けて将来構想を議論するため現状を把握する一環として、加盟団体の新規入会者へ入会動機などを調査するアンケートを実施しました。最近の新規入会者の入会動機などを調べ、加盟諸団体の会員数増加策のヒントを得ようと考えました。

アンケートは、加盟団体の2019年度以降の新規入会者115名を対象に、web上で回答する方式で44名から回答を得ました。およそ7割の加盟団体が新規入会者を得ており、コロナ禍の年にも入会者は減っていません。

新規入会者は30歳代が最も多く、一人で山に行くのが不安だからという理由もありますが、雪山や岩登り、日本アルプスへ行きたいなど具体的な目的を持ち、自己の登山技術を向上させたいという積極的な動機を多くの人が挙げていました。

情報入手方法では“各団体のHP”と“知人”から二分されました。所属クラブ員の積極的な新人勧誘の効果が大きく、会のHPの存在も大きいことがわかりました。情報が豊富でわかりやすいHPを持っていて、会員が積極的に知人を勧誘しているクラブに新規入会者が多いと言えそうです。

一方で、高校や大学時代に部活やサークルで登山を経験した人が、ほとんど社会人山岳会に入ってきていないことも見えてきました。

8月16日開催の令和4年度第2回理事会で、このアンケート結果が報告されました。今後は加盟団体に新規入会者を増やすためのヒントを紹介するとともに、法人化に向けて加盟団体の運営を支援する事業と組織の在り方について検討して参ります。
(事務局・今泉卓巳)

《アンケート内容》

◆新規入会者の有無

2019年度以降に新規に入会した会員がいる団体 … 71.4%
新規入会者がいない団体 … 28.6%

◆新規入会者の年代

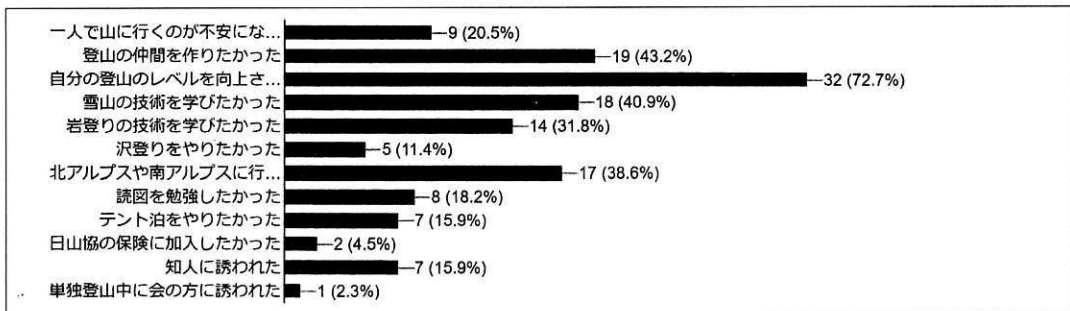
30代が一番多く、3人に1人位を占める。
40代以下が65.9%で高齢者は少ない。
30代 … 31.8% 40代 … 25%
50代 … 20.5% 60代 … 13.6%
70代以上 … 9.1%

◆入会者の性別

男性 … 59.1% 女性 … 40.9%

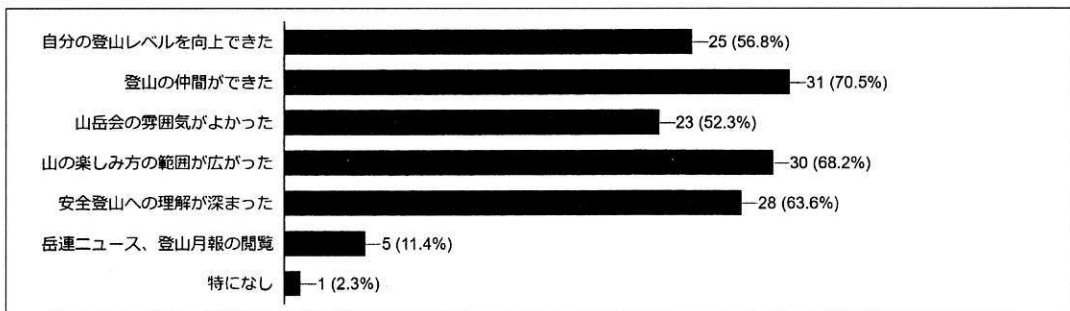
◆入会の動機

一人で山に行くのが不安、仲間を作りたい。
登山技術を向上させたい。また、雪山や岩登りなど北アや南アなどにも登りたい人が多い。



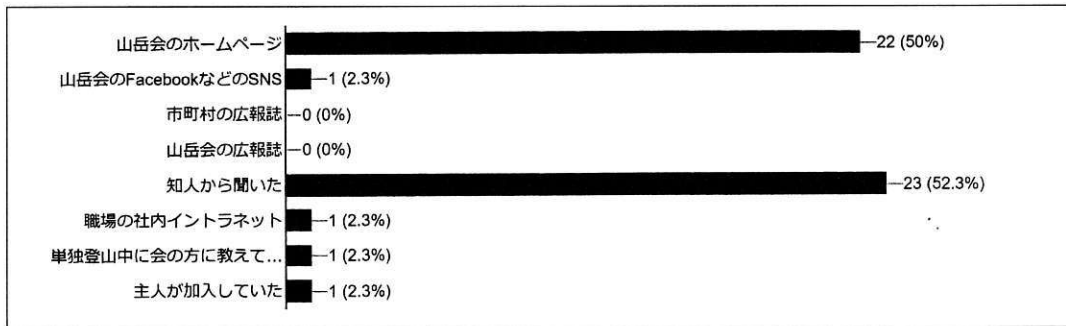
◆入会後の評価

前向きな「良かったこと」がまんべんなくチェックされており、入会後の評価は高いと思われる。



◆情報入手方法

「知人から聞いた」と「山岳会のホームページ」に2分される。両者の重なりを見ると「HPのみ」が17人、「知人のみ」が17人、両方と答えた人が4人で重複は少ない。クラブ員から積極的な勧誘が効果あり、HPの存在は大きい。



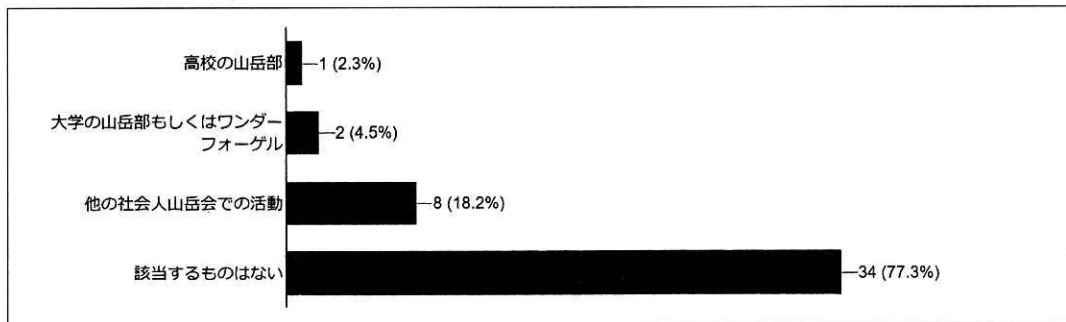
◆登山経験年数

未経験が15.9%、1～3年が36.4%、合わせて52.3%となり、経験年数の少ない人が半分ほどであった。

未経験 … 15.9% 1～3年 … 36.4%
 4～10年 … 29.5% 11年以上 … 18.2%

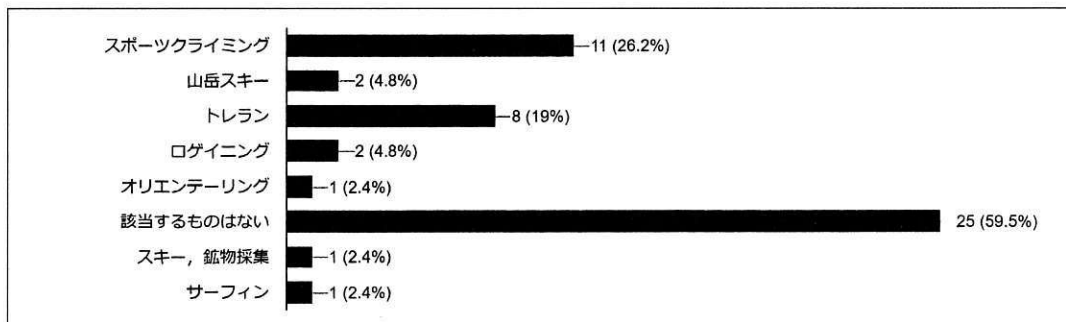
◆高校・大学での経験

高校や大学での活動経験者は非常に少ない。
学生の経験者が社会人山岳会に向かうルートができていない。



◆登山以外のスポーツ経験

スポーツクライミング、トレランの経験者が一定数いる。
山岳スポーツとの連携の可能性が期待できる。



確保技術講習会実施

暑い中での実地講習

今年6月18日、19日鞍ヶ池公園で確保技術講習会が開催されました。天候は初日曇り、二日目晴れとなり講習中は雨に降られず行うことが出来ました。

参加者は、初級コース講習生6名、上級コース講習生9名、指導員は15名でした。

尚、講習内容は以下のとおりです。

◆初級コース

〔1日目〕肩がらみによる制動確保の練習、クライミングギヤの説明と使用方法、いでたちと装備の装着方法、基本的な結びのロープワークについての実践練習〔2日目〕支点とアンカーポ



イントの作成方法と注意点、懸垂下降の注意事項と実践練習

◆上級コース

〔1日目〕肩がらみによる制動確保の練習、ブレイステーションの作成方法と注意点、リードの役割分担（ラニングプロテクションの設置）、フォロアーの役割分担（確保体勢とロープ操作）、リードのブレイからの自己脱出、ロープの登り返し

〔2日目〕前日の復習、フォロアーのブレイ方法（ブレイ器具、ムンターヒッチ、カラビナストッパー、青木ヒッチ）、懸垂下降の注意点（懸垂支点の見極め、ロープの連結、バックアップのセッティング、セルフブレイの重要性）と実践練習、カム・ナツのセッティング方法と注意点と実践練習

新型コロナ感染症のため3年間講習会が中止が続いていましたが、講習生、指導員共に暑い中頑張っていたと思います。良い講習会になったと思います。（高木 宏）

印象に残った私の登山

35

ブラザー工業山岳部

鶴田 勝己

最近、印象に残るような登山をしていないので、当部の新人たちの活動振りを紹介します。

ブラザー工業山岳部は長い歴史があり「思いっきり自然を楽しもう」をモットーに活動しています。

ここ数年は鈴鹿山域で、四季を通して岩登りや雪山を中心に山行し、今年6人の新人が入部しました。新人は元ワンゲルや個人山行経験者、インドアジムに通うボルダリや東京五輪でクライミングを知った、山好きな個性豊かな面々です。

新人はこの先、外岩に挑戦しようと登攀技術を学んでいます。四月に豊田南山でロープワークなど装備の使い方や安全確保の支点づくりを練習し、お互い新人でブレイでできるようにになりました。また、豊田天下峰では岩登りでの手や足の使い方など、基本的なムーブを練習し、体に負担の少ない登り方を理解した新人もいます。五月には御在所岳藤内壁、一壁の入門といわれる2ルートへ行き、トップロープで左のクラックに沿って

登りました。

一壁は南山に比べ、高度感や風があり、緊張したがとても楽しかったようです。また急な坂道が連続する国見尾根を木の根や既設のロープにつかまりながら登り、体力作りになりました。

六月はルートファイディングしながら、踏み跡を頼りにヴァイア・フェラータのルートを探し、ヘルメットやハーネス、カラビナを使いながら登り、新人は自分自身での安全確保を自覚しようです。また岩場では、慣れないトラバースやクラック伝いのムーブ・スリングをワイヤに掛けながら登り、チムニーを抜ける長いリッジを登るのに苦労したりして、登攀技術が身に付いてきました。

トレッキング以上クライミング未満の程よく心地よいスリルと絶景を新人は楽しみ、改めて御在所岳が好きになったようです。また、この冬に鈴鹿の藤原岳に登る予定で、今から楽しみにしています。雪山での登降やビバーク方法、低体温症の回避など安全登山をし、雪山の魅力や山の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

うなぎ錦三丁目 い ぼ しょう



〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号
TEL <052> 951-1166 番
営業時間 午前 11:00~午後 2:30
午後 4:00~午後 8:00
定休日 日曜日・第二・第三月曜日



冬山装備のメンテナンス工房

HAREYAMA

なにより「安全」のためです。命を守ってくれる相棒を大切に。

冬山装備のメンテナンス アイゼン・ピッケル研ぎます



株式会社ウオーミング
〒470-0135 愛知県日進市岩崎台1-130
Tel. 0561-72-2805



hareyama.net

講習会に参加して

身に付けたい基礎技術

やまびこ山想会
磯部 多恵

確保技術講習会が令和4年6月18日(土)、19日(日)に豊田市鞍ヶ池公園で開催され参加しました。

アイシン山岳部の木田さんが総監督で、初級、上級に分かれ、2日間講習が行われました。私は初級コースを受講しました。

トヨタ山岳会の近藤さん、春日井山岳会の坂口さんが講師、やまびこ山想会の宮森さん、三嶋さんがサブ講師となっていた。岩登りの基礎知識を2日間学びました。

18日は、肩がらみ制動、道具の使い方、装備の装着、基本的結びを学びました。19日はアンカーと支点、自己確保、懸垂降下を学びました。18日に学んだロープワークを活かし19日は実践形式で行いました。

今回、初めて愛知県山岳連盟の確保講習会に参加しましたが、ちょうどその1週間前に所属する山岳会が豊田市の南山で岩登り講習会を受講していたので、2週連続して岩登りのノウハウを学ぶことができ、非常に習得する技術が多い分、体にしっかりと身に

つける良い機会となりました。安全に岩登りを行う基礎的技術を身につけることができ、改めて安全で楽しい岩登りができるようにしたいと思います。

日本山岳会東海支部設立60周年記念登山

インドヒマラヤ登山隊未踏峰にチャレンジ

東海支部は、昨年設立60周年の記念となる海外登山2隊の遠征を行い、いずれも登頂を果たして無事帰国した。後援をいただいた第14次インドヒマラヤ隊は、1988年より継続して行っている中高年登山隊で、インドヒマラヤ・ヤン峰(6230m)に派遣して以来、14次、18隊をインドヒマラヤの6000m峰に派遣し、全て目的の山に登頂し、内10回は初登頂です。登山のスタイルは、未踏地域の踏査、学術調査、環境調査等

であり、支部設立の志向を継続しています。第14次隊は、当初、旧ジャンム・カシミール州のパンゴン山脈地区に位置するパンゴン・レンジの未踏峰に狙いを定めました。しかし2018年の13次隊未踏峰登山後は、コロナ禍の影響により偵察等の海外渡航ができず、延期せざるを得ない状況が続きました。また、インド・IMFは今年3月に申請書を受理しながら、登山許可は6月訪問時でも許可を受け取れることは叶わず、第3候補地のラダック州カン・ユセイ山群に変更して申請し、ようやく受理された。

両日とも、何とか天気にも恵まれ、有意義な講習会でした。講師となっていた方々と講習会を開催してくださった愛知県山岳連盟に感謝します。



〔期 日〕2022年6月20日名古屋・羽田ANAでデリー着 帰路は7月21日、28日羽田・名古屋帰着
〔隊の編成〕
総隊長…沖 允人(87歳)
隊長…星 一男(71歳)
登攀隊長…栗木洋明(68歳)
副隊長…岩瀬幹生(67歳)

隊 員…印藤寿浩(63歳)
印藤義子(63歳)
鍛次真由美(50歳)
リエンズオフィサー(45歳)
ガジェンドラ・デシムムク(45歳)

〔概要〕
6月21日 登山隊はデリーに到着し、IMFを訪問、代表ブイジャイ・シンと会議を開き、登山許可の最後の要請をおこなったが、第一目標のラダック州・パンゴン山脈・メラック峰(6481m)と第二目標としていたラダック山脈のラルギヤツプ(6150m)はいずれもインド政府からの許可が取得できなかった。第三目標としていたラダック山脈のカン・ユセイ山群のカン・ユセイⅢ(6401m)と周辺の無名峰に登山許可を申請し、急遽登山許可書を発行してもらった。

6月23日 空路ラダック州の首都レー(3505m)に移動し、数日滞在し、登山準備と高所順応を行った。6月28日 中型車5台とトラック1台でレーを出発し、約50km先のカルー(3800m)の少し先から南の谷に沿ったキャラバンコースに入り車道の終点ジャン・スドに到着した。事前に手配して待機していた24頭の馬に隊荷を積み、谷にそって出発した。キャラバン、車道の終点からベースキャンプまで河原の中の道を進み、3時間で河原か

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号
(地下鉄・久屋大通駅から徒歩2分) 丸の内東桜ビル1004号室
TEL:090-4857-9130
URL: http://www.nygs-office.com/

安心して選べる三河地区のプロショップ
JR刈谷駅前
穂高
登山用品豊富!
〒448-0825 刈谷市神明町6-408 TEL 0566(23)8611 定休日/火曜日 営業時間/10:00~20:00

ら離れて山の斜面を登り、2時間中継点のキャンプ地に到着した。

6月29日 中継点のキャンプ地を徒歩で出発し、3時間でコンマル峠(5260m)に到着した。コンマル峠からは、カン・ユージェイ山群の全容が望まれた。そこから南に細い道をくだり、約3時間でニマリ谷に降り立ち、約2時間ほど花場の咲き乱れる草原を移動して5000m地点に到着してキャンプした。隊荷は24頭の馬で運んだ。キャンプ地は広々とした草原で川も流れていた気持ちの休まる場所であった。

〔登山活動開始〕

6月30日 キャンプ地を出発し、カン・ユージェイ山群の南側下部にBC(約5278m)を設営した。

7月2日 カポ・リ(6150m)の上部ルート偵察のため、2隊を編成した。氷河チームは、カポ・リ氷河を詰めて、カポ・リ(6150m)の西にのびたコル(山頂から500mほど西にある)まで偵察を行った。ルートは、瘦せたポロポロの岩稜で危険が多く、登頂ルートとしては、採用できないと判断した。栗木(登攀隊長)、岩瀬(登攀副隊長)、鍛次隊員を含めて「稜線グループ」6名は、BCよりカポ・リ、からシャドール・リに続く東陵上(5600m)付近まで偵察した。稜

線の北側は急峻な雪と氷の壁で、南側はガレの急斜面である。稜線上に前進キャンプを設営すれば登頂は可能と判断し、その後、BCに帰着した。

7月3日 体調不良の印藤寿浩に同行して印藤義子と星一男隊長が馬と車を持ち継ぎ、急遽、レーに下山した。その後の登山指揮は登攀隊長の栗木洋明が行った。

7月4日 午前7時50分、日本人3名とインド人5名がBCを出発。日本人3名とインド人5名がHC設営地点に9時55分に到着した。この時点で雨柱が接近してくるのを確認。その後、風雨が強まりテントの中で一時間ほど待機し、この日の上部偵察は諦めた。その後、荷揚げ要員のインド人3名がBCに下山。テント2張りも設営し、5600mに日本人3名とインド人2名が宿泊した。

7月5日 前夜から天候が思わしくなく、登頂が危ぶまれたが朝までには天候が回復。HCを6時30分に出発。5名が安全のためにアンザイレンして進み、9時5分にシヤドール・リ(5942m)に登頂した。45分間頂上において写真撮影などを行った。ガポリ山頂に続く稜線は急峻で、これをたどることは危険が多いと判断し11時20分にHCに帰り、テントを撤収し12時10分下山開始。13時にBCに帰着した。

7月6日・7日 BCで休養。

7月8日 BCは移動はせず、これまでのBCからドゾ・ジョンゴ(6211m)東峰に登ることにし、日本人3名とインド人4名が8時45分に出発。12時10分、ドゾ・ジョンゴ東峰の東尾根上にHC(5805m)を設営した。この日、午後から風速が強まり天候が悪化。午後2時半ごろから3時40分ごろにかけて雷雲が頭上を通過。それと同時に霰が強烈な勢いでテントに吹き付け、生きた心地がしなかった。夜間には雪が降り積もり、翌朝にはあたり一面銀世界になっていた。

7月9日 明け方まで雪が降り続いてきた。天候の回復を1時間ほど待ってHCを7時05分に出発し、ドゾ・ジョンゴ東峰に9時25分に登頂し10時40分まで山頂に滞在した。

た。周辺の山々を間近にながめ、下山を開始した。11時40分にHCに帰り、テントを撤収し、HCを12時40分に出発、14時10分に無事、BCに帰着した。

7月11日 BCを撤収して8時10分に出発。来るときと同じキャラバンコースで16時40分に車の終点ジャン・スムドに到着。迎いの車でレーに向かい、19時にラリーモーターに到着した。

インド辺境地帯の4000mを超す過酷な自然環境での高齢者を中心とした登山隊であったが、力を合わせ一応の目的を達成した。ご後援頂いた「中日新聞社」並びに「愛知県山岳連盟」をはじめ多くの皆様のご支援・ご協力いただいた関係各位に心からお礼申し上げます。(沖 允人・星 一男)

常任理事会

9月6日(火) Web会議

会長あいさつ

報告事項

1. 第43回東海ブロック大会(7/16~17) 佐橋、倉
2. アジア競技大会運営能力向上研修会(8/23) 伊藤
3. SC強化活動報告(8・9月度) 倉、佐橋
4. 国立登山研修所上級登山指導リスキーマネジメント研

修会(北村)

その他

審議・お知らせ事項

1. 将来構想検討委員会(9/7 Web) 今泉、北村
2. 指導員研修会・救助講習会向け(9/17南山) 木田、高木
3. 第77回栃木国体SC競技大会(10/2~4) 倉、佐橋
4. SCコーチ養成講習会(富山県、兵庫県、山口県)

次回常任理事会は11月1日です Web会議

~ アジア最大のスポーツの祭典 ~

第20回 アジア競技大会

(2026/愛知・名古屋)

日時 2026.9.19(土)~10.4(日)

会場 瑞穂公園陸上競技場 他

主催 アジア・オリンピック評議会

5. 佐橋、倉
6. 登山勉強会・救助Web(9/13) 木田、高木
7. 高体連秋山講習会(10/22~23 釈迦ヶ岳) 小島、佐橋
8. 第55回自然保護観覧会(10/23) 栗木
9. 安全登山指導者研修会・西部地区(10/21~23茨城)
10. 西部地区(11/18~20鳥根)
11. 「遭難を考える」講演会(11/25) 中川、有富
12. その他